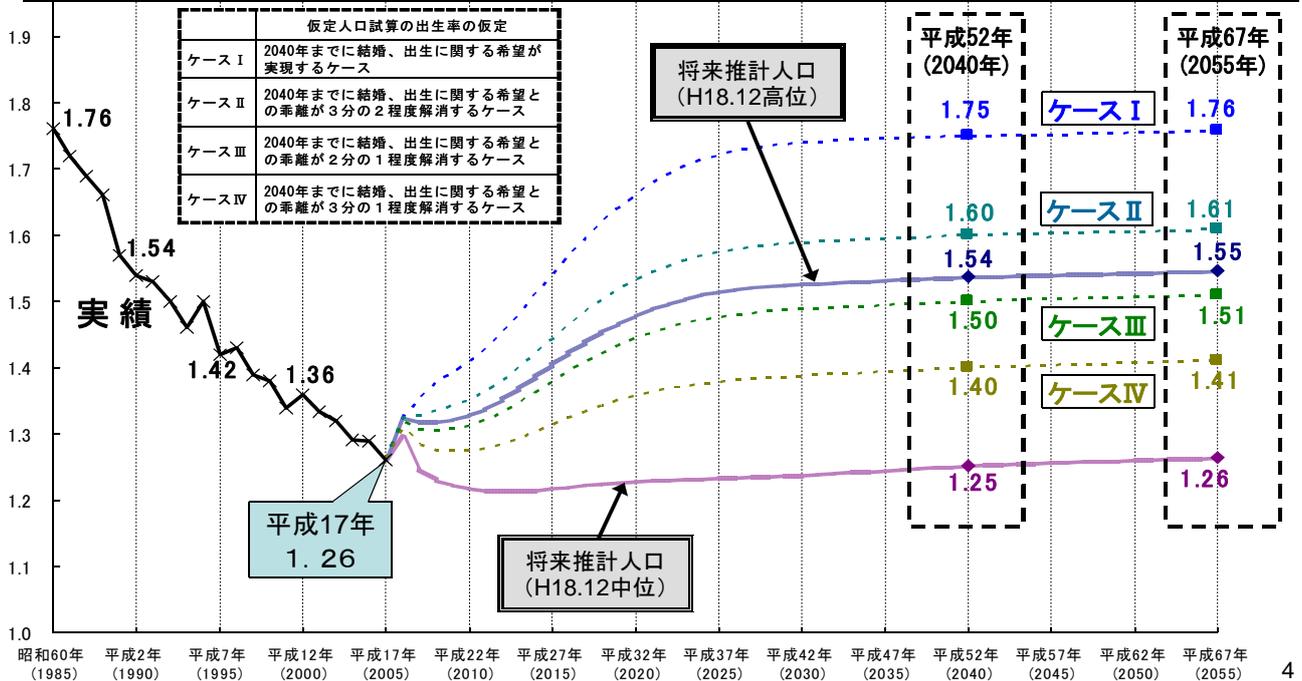


希望を反映した人口試算の合計特殊出生率の仮定

- 2040年(これから出生年齢に入る1990年生の女性が50歳となる時)までに、結婚や出生の障壁が一定程度解消され合計特殊出生率が回復するものとして仮定人口試算を実施。
- 出生率の回復過程については、様々な経路が考えられるが、この試算においては将来推計人口(H18.12)の高位推計と中位推計の出生率を機械的に比例配分した。



希望を反映した人口試算(H19.1)の試算結果

(単位:万人)

	〔合計特殊出生率(2040)〕	2005(実績)		2030		2055		
総人口	ケース I (1.75)	12,777	→	12,061	→	10,391		
	ケース II (1.60)						11,901	9,954
	ケース III (1.50)						11,793	9,670
	ケース IV (1.40)						11,684	9,393
	将来推計人口-中位(1.25)						12,777	→
年少人口 (14歳以下)	ケース I (1.75)	1,759 [13.8%]	→	1,519 [12.6%]	→	1,318 [12.7%]		
	ケース II (1.60)						1,398 [11.7%]	1,132 [11.4%]
	ケース III (1.50)						1,317 [11.2%]	1,015 [10.5%]
	ケース IV (1.40)						1,236 [10.6%]	904 [9.6%]
	将来推計人口-中位(1.25)						1,759 [13.8%]	→
生産年齢人口 (15歳~64歳)	ケース I (1.75)	8,442 [66.1%]	→	6,875 [57.0%]	→	5,427 [52.2%]		
	ケース II (1.60)						6,836 [57.4%]	5,176 [52.0%]
	ケース III (1.50)						6,809 [57.7%]	5,009 [51.8%]
	ケース IV (1.40)						6,782 [58.0%]	4,842 [51.6%]
	将来推計人口-中位(1.25)						8,442 [66.1%]	→
老年人口 (65歳以上)	ケース I (1.75)	2,576 [20.2%]	→	3,667 [30.4%]	→	3,646 [35.1%]		
	ケース II (1.60)						3,667 [30.8%]	3,646 [36.6%]
	ケース III (1.50)						3,667 [31.1%]	3,646 [37.7%]
	ケース IV (1.40)						3,667 [31.4%]	3,646 [38.8%]
	将来推計人口-中位(1.25)						2,576 [20.2%]	→